

柵の木からの手紙

2021年 神無月 10月号



休閒緑肥としてエン麦を作付けする予定地。春から何も播かずに雑草だけを緑肥として育て何度か畑にすき込んでいた。

6日： 新月 旧 9月 1日

8日： 寒露

20日： 満月 旧 9月 15日

23日： 霜降

24日： 北見センター 収穫祭

9時30分～12時



エン麦を播種して成育したまま冬を越させて春に畑にすき込む。目的としては、えん麦の根による畑の土壌構造の改善。問題としては、えん麦の間に生育してきた雑草の行方。また、えん麦が種を持つかどうか。…。

当初、7月末までに播種を考えていましたが、普及員の方の助言で8月末から9月初め頃に播く事にしました。しかし実際には、芋の収穫が終わり落ち着いた9月12日、えん麦を播種しました。

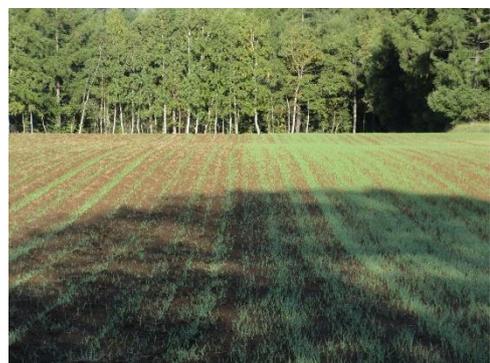
芋の収穫が終わり、心土破碎をして畝筋に溝が走っています。そこに施肥機にえん麦と新農場物語（有機質肥料）を混ぜて入れて播種を行いました。続けて、整地作業を行って播いたエン麦を畑に浅くすき込みましたが降雨の為中止。その後も作業をする機会も作れず、結局、休閒緑肥の予定地は整地作業が出来ましたが、芋跡の1町半程の面積は整地が出来ずに溝が付いたままです。



10月1日の畑の様子。

えん麦は葉が3枚になりました。左写真の中心から右は整地済みの部分。左は溝が付いたままの部分。左側は、溝に落ちたままエン麦が生育している為筋状に見えています。

例年では、芋の収穫後は、心土破碎の後、雑草処理の為に何度か整地を行い畑は土の色になっています。雪が降る頃に米糠を畑全面に散布して浅く整地します。



今年の、この後の畑の処理は、えん麦をそのまま生育させるために整地作業等はせずに、雪前に米糠を散布して根雪になった頃雪踏みをして、芋の残渣を凍結させる予定です。

看板右のヒマワリ跡の右のビーツ跡の右には、資材が無くなった為、10m程えん麦を播けなかった部分があります。

